

激闘のセンバツを終えて 選手のコメント紹介 ⑤

赤鬼の春Ⅱ文 62



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

12 井上人太君

井上人太君(1-5)は甲子園での試合を振り返って「増居さんを中心に相手を抑えることができていたが、こちらの打線の援護が少なく、チャンスで点を取れないことがあった。チャンスのときに追い風に乗れるような勝負強さを身につけていかなければならないと思った」と課題を挙げた。また「実際に甲子園の舞台に立ってアルプスを見てみて、スタンドのみなさんの力の大きさや自分たちは多くの人から応援されているということを改めて確認できた」と笑顔を見せた。井上君はベンチメンバーとして意識したことを「試合に出る機会はなくても、ブルペンキャッチャーとしてピッチャーを支えるなど、ベンチ内でやれることをしてチームに貢献しようと思っ

13 中谷凌君

中谷凌君(1-8)は甲子園に出場したことについて「甲子園出場は小さいころからの夢だったので、ベンチにいられるだけでもうれしかったし、出場させてもらえたことはとても良い経験になった」と感想を寄せた。また花巻東戦を振り返って「対戦できたことに縁を感じた。5年前の花巻東との試合をテレビで見ている、それが東高に行きたいと思うきっかけになった。

14 中川響君

中川響君(2-3)は慶応戦を振り返って「相手の応援もすごかったが、彦根東の応援もすごかった。応援が力になり、増居の良いピッチングや高内のホームランが勝ちにつながった」と微笑んだ。また花巻東戦を振り返って「増居にノーヒットノーランをさせてあげたかった。相手のプレーがすごかったので、そのプレーを春に見られてよかったと思う。自分たちもああいうプレーができればいいと思う」と打ち明けた。中川君は甲子園で印象的だったことを「応援がとても印象に残っている。赤色に統一されていたり声がそろったりしていてす

15 水谷洸太郎君

水谷洸太郎君(2-6)は「慶応戦は接戦になるだろうとわかっていた。接戦の展開でも勝てるということが証明されて、自信につながった。高内のスリーランホームランがとても印象的。花巻東戦は増居が良いピッチングをしてくれていた。打線が頑張っていて、もうちょっと打てていたらなと思う。打撃が反省点」と甲子園の試合を振り返った。また水谷君は「去年の夏に先輩方が一勝されて、甲子園でも勝てるということがわかった。昨夏の良い流れを受け継いで勝負ができたことは良かった点だと思う。今後はバッティングを磨いて、良いバッティングができるような選手になりたい」と意欲を見せた。

だからそのときの先輩方の分まで戦えたと思いい、うれしかった」と笑みを浮かべた。また中谷君は「夏も春も甲子園に出場したので、県内のチームにはマークされていると思う。そのなかで勝ち切る力は、今まで通りのやり方では身に付かないと思うので、練習を変えていきたい。限界を自分で作らず、思い切りプレーできるようにしたい」と意気込んでいる。

ごかった。どの高校よりも良い応援だったと思う」と話し、甲子園に夏春連続で出場したことについて「公立高校で代替わりをしてからも甲子園に出るのは難しいことだと思う。昨夏の甲子園を経験してきたメンバーを中心にやってきて、最初はあまりまとまりがなかったが、最終的に出場できたのでよかった」と笑顔で話した。